

町の活性化対策は

前向きに取り組む



議員 矢野 昭三

問 昔は、青年団があり、出会の場があった。若者に出会の場の企画をすべきと考えるがどうか。

答 大西町長

若者にはこれまでもイベントに携って頂いているが、新年度は県の事業で取り組む予定。

問 人材育成として外から日本を、ふるさとを見ることは、町づくりには何が必要かを考えるきっかけとなると考えるが、仕掛け作りが必要ではないか。

答 大西町長

中学生の海外研修を継続していく。以前、外国を視察し、発展途上国の力を感じた。国民は国を守る責任を負っている。少しでも国のために働くことが出来ればと日々考えている。

用の創出に努めている。また、黒潮認証ブランド事業、特産品加工場を軌道に乗せたい。

農業振興については、町単独で農家へ出向くことは考えていない。ただし、農家から要請があった場合は、内容によって関係機関とも出向いていきたい。

カツオ等資源保護については、パワーバランスで国際間交渉は成り立っている。水産庁からの意見を基に検討したい。

問 高齢者、障害者等が安心して生活するための対策の現状を問う。

また、集落活動センター構想は、強く前向きに取り組むが必要と考えるが、いかがか。

答 大西町長

ヘルパーの介助を始め、あったかふれあいセンターの訪問サービスや見守り体制の整備、地域福祉計画を積極的に推進する。

問 地域の安全・安心対策として、中村警察署拳の川駐在所改築の見通しを問う。

答 大西町長

拳の川駐在所は、大変重要である。県警本部は平成24年度建設予算がほぼ確定。25年4月から新しい駐在所で業務を行なう見込み。



建築予定地



現在の拳の川駐在所